

「高校魅力化評価システム」について

1. 「高校魅力化評価システム」の活用

「高校魅力化評価システム」とは、高校魅力化(魅力ある高校づくり)が、各校の学習環境や生徒の資質・能力にどのような影響をもたらしているかを、定量的に可視化するための仕組みです。生徒及び大人(教職員、高校に関わる地域の大人)に対するアンケート調査を実施し、調査内容は、**図表 1** のとおり「①学習活動」「②学習環境」「③能力認識」「④行動実績」「⑤満足度」の5つのパートに分かれています。また、①～④の項目について、これからの社会で求められる「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの視点から質問項目が構成されています。

島根県教育委員会は、2019 年から「高校魅力化評価システム」を全県立高校に導入し、「魅力ある高校づくり」についての施策評価や県立高校におけるグランドデザイン実現のための振り返りや PDCA サイクル構築に活用しています。

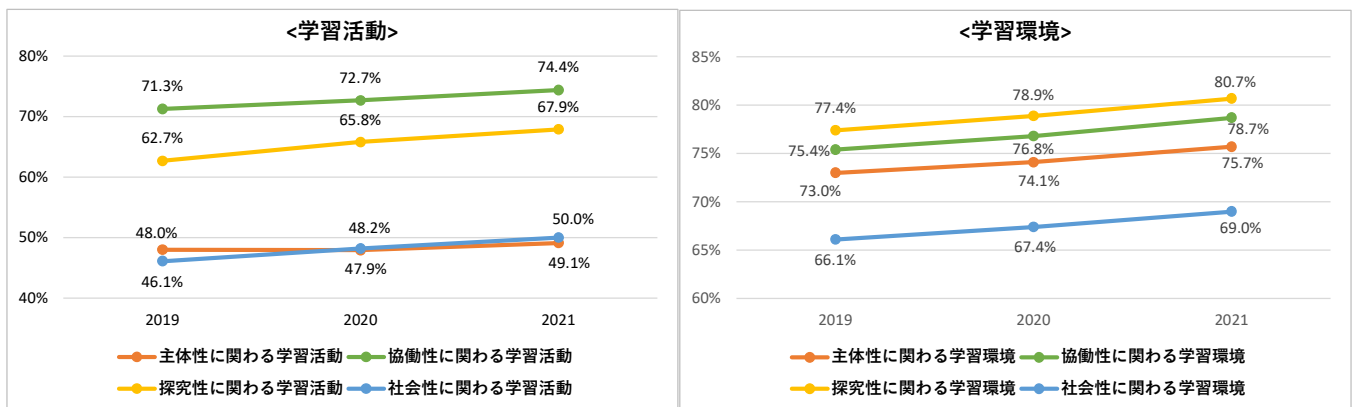
図表 1 「高校魅力化評価システム」の質問構成要素

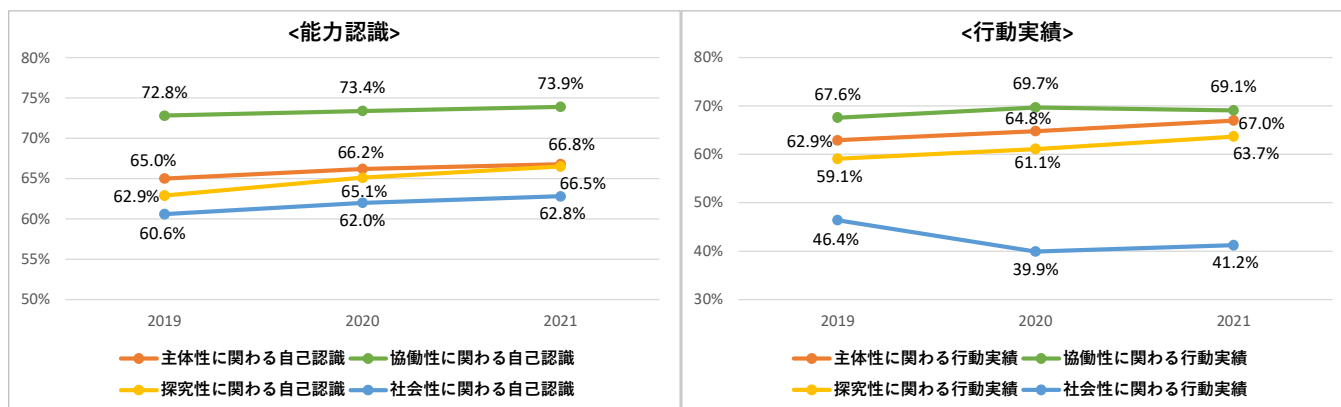
生徒向け調査の構造		主体性	協働性	探究性	社会性
イン プ ット 指 標	①学習活動	・主体性に関わる学習活動の量	・協働性に関わる学習活動の量	・探究性に関わる学習活動の量	・社会性に関わる学習活動の量
	②学習環境	・主体性に関わる学習環境の質 (挑戦の連鎖を生む安心・安全の土壌)	・協働性に関わる学習環境の質 (協働を生む多様性の土壌)	・探究性に関わる学習環境の質 (問う・問われる対話の土壌)	・社会性に関わる学習環境の質 (地域や社会に開かれた土壌)
ア ウ ッ ト プ ット 指 標	③能力認識	・主体性に関わる生徒の自己認識	・協働性に関わる生徒の自己認識	・探究性に関わる生徒の自己認識	・社会性に関わる生徒の自己認識
	④行動実績	・主体性に関わる生徒のここ1か月の行動	・協働性に関わる生徒のここ1か月の行動	・探究性に関わる生徒のここ1か月の行動	・社会性に関わる生徒のここ1か月の行動
	⑤満足度	高校、自身の生活等に関する総合的な評価			

2. 3年間の結果推移

図表 2 は、「①学習活動」「②学習環境」「③能力認識」「④行動実績」での4段階評価のうち、生徒の肯定的回答割合の推移(2019～2021 年)を示したものです。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた「社会性に関わる行動実績」以外、全体として上昇傾向にあります。特に学習活動や学習環境といったインプット指標だけでなく、生徒の能力認識や行動実績といったアウトプット指標においても伸びが見られたことは、高校魅力化の成果が確実に現れているといえます。

図表 2 3年間の結果の推移





注1) 通信制、特別支援学校を除く県立高校 38 校(分校、定時制は別カウント)の生徒を対象とした。分析に使用した生徒数は、2019 年 11,500 人、2020 年 11,293 人、2021 年 11,430 人である。

注2) 評価結果の分析を三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング(株)に委託

3. 強み・伸びしろ(2021 年)

図表 3 は、2021 年における生徒の肯定的回答割合が最も高い項目と最も低い項目を、強み・伸びしろ(課題)として示しています。〈学習活動〉、〈行動実績〉の伸びしろ(課題)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたと考えられますが、各県立高校で強みや伸びしろ(課題)を増進、克服するために必要な「次の一手」を検討します。県教委としても各校の取組に伴走しながら支援しています。

図表 3 強み・伸びしろ(2021 年)

強み; 肯定的回答割合が最も高い項目			伸びしろ: 肯定的回答割合が最も低い項目	
〈学習活動〉	88.5%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	35.2%	学校外のいろいろな人に話を聞きに行く
〈学習環境〉	90.5%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	55.2%	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
〈自己認識〉	92.9%	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	42.3%	将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい
〈行動実績〉	78.1%	授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	29.3%	地域社会などでボランティア活動に参加した